



エコアクション21

# 「環境経営レポート」

2024年度

実施(運用)期間

2024/9～2025/8

先人に学び 人と環境にやさしい 心豊かなくらしをつくる



**株式会社 富田工務店**



第17版 2025年12月1日

目 次

1	企業理念・環境経営方針	P.1～P.2
2	組織の概要	P.3～P.4
3	対象範囲	P.5
4	組織図及び実施体制	P.6
5	環境負荷の調査結果(実績)	P.7
6	環境経営目標(中期計画)	P.8～P.10
7	環境経営各目標の達成状況・評価	P.11～P.19
8	環境経営目標計画及び環境活動の実施状況	P.20～P.22
9	環境関連法規一覧 兼 遵守評価表	P.23～P.25
10	外部からの苦情などの受付状況及びその対応策	P.26
11	環境経営計画(2025年度)	P.27～P.28
12	取組状況の確認・評価、並びに問題の是正及び予防	P.29～P.30
13	代表者による全体評価と見直しの結果	P.31

# 1. 企業理念・環境経営方針

## 企業理念

先人に学び 人と環境にやさしい 心豊かな暮らしをつくる

### ・環境をまもる責任

環境を守り未来につなげてゆくことは私たちの責任です。  
不法投棄の撲滅に貢献します。

### ・信頼を大切にします

地域の信頼を大切にし、廃棄物の適正処分に万全を期し安全な暮らしを守ります。

### ・自信と誇り

環境保全と空き家対策で、地域の未来に貢献し、誇りをもって日々の業務に当たります。

## 経営における課題とチャンス

### 【経営における課題とチャンス】

社会構造の変化を受けて、建設業から産業廃棄物処分業への業種転換をすすめてきました。  
2022年に牧之原の安定型産業廃棄物処分場が稼働を開始しています。

#### 《課題》

#### ①法順守の徹底

産業廃棄物処分業については、直接・間接を問わず、厳しい法規則が設けられています。  
これまでも搬入物管理の徹底に努めてきましたが、常に体制、制度の見直しを行っていく  
必要があります。

#### ②経営上の安定

SNSの発達に伴い、社会の仕組みが大きく変わっています。情報取得、発信が容易になり  
ましたが、ひとつの事象から距離や規模と無関係に想定困難な影響を受ける状態になって  
います。

また、DXの推進等により効率的な業務形態構築が進められている反面、システムの脆弱性に  
付け込んだ犯罪が多発しています。

危機の要素として、社会構造の変化からくるもの、従来からある自然災害等によるものを  
総合的にとらえて、たえず対応を見直してゆく必要があります。

#### ③人材の確保

業種を問わず、従業員の確保が困難になっています。

働き手を確保し、業務の質の向上をめざす必要があります。

## 《チャンス》

### ア.情報ソースの充実

環境関係の制度、運営についての専門家との提携をすすめ、法順守・事故防止についての知識を深めることにより、業務の安全性の確保を行います。

また、業界をとりまく情勢についてのチャンネルを増やし、高騰する物価の価格転嫁の可能性の検討を含め、経営の安定化を目指します。

### イ.想定される危機と対策の検討

想定される危機とその対策について、補償(保険)等の対応を含め、検討を行い、実行していきます。

### ウ.社員教育の充実

社員教育を充実することにより、知識・意識・意欲の向上をはかり、安心して働ける職場環境、安全性の向上をはかり、安心して働ける職場環境、安全性の向上を目指します。

◎安全管理の向上、会社の経営の安定により、地域社会、顧客など多方面からの信頼を高めることができます。

産業廃棄物処理施設については、社会に必要不可欠なものですが、その数は十分なものではありません。課題に真摯に向き合うことで環境保全に貢献する施設としての使命を果たしてゆくことができます。

## 環境経営方針

---

- 1.産業廃棄物処理施設の健全な運営、搬入物の徹底管理により、低炭素社会の実現に、環境保全に貢献する。
- 2.地球環境保護のため、省資源・省エネルギー・リサイクル活動を推進する。
  - 1)二酸化炭素排出量の削減
  - 2)廃棄物搬出量の削減及びリサイクル
  - 3)節水の取り組み・水使用量の削減
- 3.環境関連の法令を遵守する。

制定 2009年 9月 1日

改定 2022年 10月 1日

株式会社 富田工務店

代表取締役 富田道明

## 2. 組織の概要

### 1. 会社概要

会社名	株式会社 富田工務店
代表者名	代表取締役 富田道明
住所	◆本社・事務所・資材置場 静岡県榛原郡川根本町上長尾 8 5 6 - 7 ◆最終処分場(エビラサワ) 静岡県榛原郡川根本町下長尾 1 9 9 8 - 1 ◆最終処分場(はいばらエコセンター) 静岡県牧之原市勝俣 2 8 3 6 - 6 3
資本金	2,000万円
創立	1970年6月4日

### 2. 事業規模

活動規模		単位	2022年	2023年	2024年
従業員数		人	11	12	12
建設	工事請負件数	件	47	65	70
	建設・不動産売上高	百万円	57	31	16
	床面積	m <sup>2</sup>	168.4	168.4	168.4
処分場	産業廃棄物処分量	m <sup>2</sup>	20,485	34,179	31,978
	産業廃棄物売上高	百万円	213	346	339
	床面積	m <sup>2</sup>	144	144	144

### 3. 事業の概要

#### 最終処分場

・産業廃棄物の安定型処分(埋立)業

①許可の状況

種類	優良安定型最終処分業	許可番号	第02231122722号
許可年月日	令和3年11月19日	有効期間	令和10年11月18日
受入許可品目	・廃プラスチック(石綿含有廃棄物含む)		
	・金属くず		
	・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず(石綿含有廃棄物)含む		
	・がれき類(石綿含有廃棄物含む)		

②施設の状況・処理量(搬入量)

エ ビ ラ サ ワ	埋立面積(m <sup>2</sup> )	10,928m <sup>2</sup>	は い ば ら	埋立面積(m <sup>2</sup> )	19,650m <sup>2</sup>
	埋立容量(m <sup>3</sup> )	102,897m <sup>3</sup>		埋立容量(m <sup>3</sup> )	244,200m <sup>3</sup>
	当期搬入実績(m <sup>3</sup> )	0m <sup>3</sup>		当期搬入実績(m <sup>3</sup> )	31,978m <sup>3</sup>
	搬入量累計	140,487m <sup>3</sup>		搬入量累計	84,510m <sup>3</sup>
	残容量m <sup>3</sup>	0m <sup>3</sup> (2023.3月受入終了)		残容量m <sup>3</sup>	188,555m <sup>3</sup>

※はいばらの当期搬入実績・搬入量累計は、マニフェスト数値。

※残容量は、2025年3月末の計測時点での実測値

③設置設備

トラック積載容量計測システム キャパライザー

④廃棄物処理工程フロー



**収集運搬業**

・産業廃棄物の収集運搬業

①許可の状況

許可番号	許可年月日	有効期間	許可内容
産業廃棄物 運搬 第02201122722号	令和3年11月22日	令和8年11月21日	廃プラスチック類(※)、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず(※)、がれき類(※) ※石綿含有産業廃棄物を含む

②車両の登録内容

4t ダンプ … 1台  
3t ダンプ … 1台

③運搬量

2024年度 運搬なし

**建設業**

- ・一般住宅建築、集合住宅等の木造及び鉄骨の設計・施工
- ・土木工事の設計、施工(官公庁及び民間企業、その他)
- ・空家住宅の流通及び活用

①許可の状況

許可番号	許可年月日	有効期間	許可内容
建設業 静岡県知事許可 一般(特)第362号	令和4年1月14日	令和9年1月13日	土木、建築、大工、とび・土工、解体工事
建築 一級建築士事務所 静岡県知事登録(4)第6376号	令和2年6月15日	令和7年6月14日	—
不動産 静岡県知事(2)第13957号	令和4年6月13日	令和9年6月12日	—

一般社団法人静岡県古民家再生協会 会員

### 3. 対象範囲

#### 1.対象範囲・環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

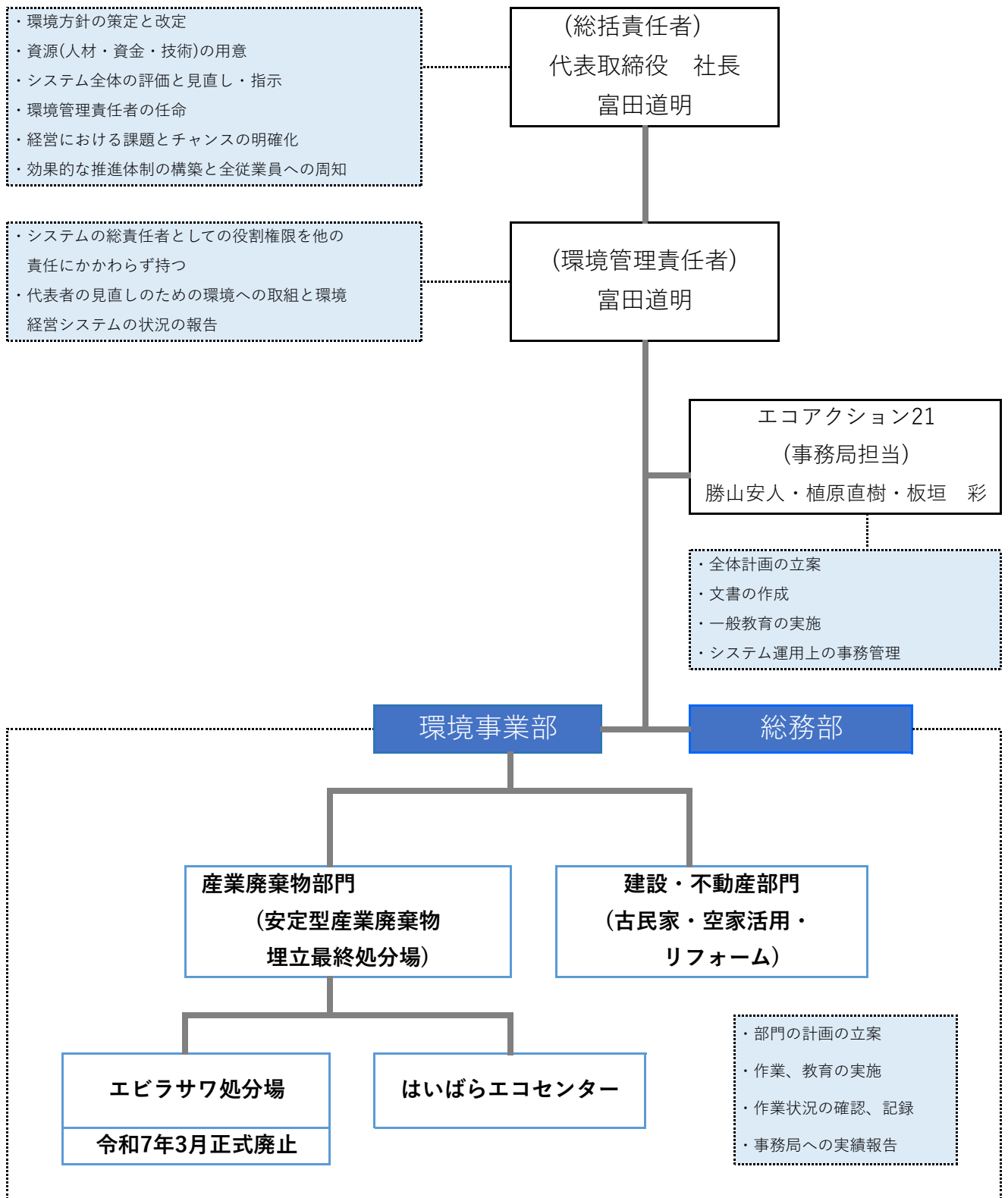
対 象 組 織	株式会社 富田工務店 本社・事務所・資材置場 最終処分場(エビラサワ),最終処分場(はいばらエコセンター)
対 象 活 動	産業廃棄物最終処分場 不動産業 建設業(土木、建築、大工、とび・土工、解体工事業)
環 境 管 理 責 任 者	富田道明
EA 21 担 当 者	勝山安人・植原直樹・板垣 彩
連 絡 先	TEL : 0547-56-0248 FAX : 0547-56-0341 E-mail : kbtomita@po2.across.or.jp

#### 2.経営環境レポートの対象期間及び発行日

対 象 期 間	2024.9.1～2025.8.31
発 行 日	2025.11.1



## 4. 組織図及び実施体制



## 5. 環境負荷の調査結果（実績）

### 2024年度 環境負荷実績

	環境負荷	単位	目標	実績	評価
CO2排出量	二酸化炭素 計		91,842	81,746	○
	総量	本社	45,557	25,958	○
		処分場（はいばらエコセンター）	46,285	55,788	×
原単位	原単位 2025.8期 売上355百万円	kg-CO2/ 百万円	329	230	○
エネルギー 使用量	電力 計		27,133	26,536	○
	本社	kwh	19,030	16,623	○
			処分場（はいばらエコセンター）	8,103	9,913
	ガソリン 計		8,663	6,994	○
	本社	L	7,327	5,845	○
			処分場（はいばらエコセンター）	1,335	1,149
	軽油 計		23,035	20,760	○
	本社	L	7,706	1,894	○
			処分場（はいばらエコセンター）	15,329	18,865
	灯油 計		53	18	○
本社	L	53	18	○	
		処分場（はいばらエコセンター）	0	0	○
水使用量	上水・農業用水 計		213	194	○
	本社	m <sup>3</sup>	103	86	○
			処分場（はいばらエコセンター）	110	108
産業廃棄物	総排出量（本社のみ）	kg	61,189	22,458	○
	中間処理量	kg	48,951	2,322	—
	うち再資源化量		39,160	2,255	—
	再資源化率	%	80	97	○
	最終処分量(埋立)	kg	12,238	20,136	—
一般廃棄物	総排出量 計		265	425	×
	本社	kg	70	52	○
			処分場（はいばらエコセンター）	195	373

※ 電力のCO2排出係数は、基準年度(2022年度)の係数0.449kg-CO2/kwhを使用しています。

## 6. 経営環境目標・中期計画（5年）（2023年度から2027年度）

### ○ 環境経営目標 【本社】（エビラサワ処分場含む）

環境負荷	単位	基準値	対基準年	1年目	対基準年	2年目	対基準年	3年目	対基準年	4年目	対基準年	5年目	
		2022年度 実績	年間削減 目標率	2023年度	年間削減 目標率	2024年度	年間削減 目標率	2025年度	年間削減 目標率	2026年度	年間削減 目標率	2027年度	
		売上 271百万円	%	目標数値	%	目標数値	%	目標数値	%	目標数値	%	目標数値	
CO2排出量	総量	kg-CO2	46,194	-0.6	45,876	-1.2	45,557	-1.8	45,239	-2.4	44,921	-3.1	44,603
電力		kw h	19,222	-0.5	19,126	-1.0	19,030	-1.5	18,934	-2.0	18,838	-2.5	18,741
ガソリン		L	7,477	-1.0	7,402	-2.0	7,327	-3.0	7,253	-4.0	7,178	-5.0	7,103
軽油		L	7,784	-0.5	7,745	-1.0	7,706	-1.5	7,667	-2.0	7,628	-2.5	7,589
灯油		L	54.0	-1.0	53.5	-2.0	53.0	-3.0	52.4	-4.0	51.8	-5.0	51.3
水使用量	上水及び 農業用水	m <sup>3</sup>	105	-1.0	104	-2.0	103	-3.0	102	-4.0	101	-5.0	100
産業廃棄物	総排出量	kg	62,438	-1.0	61,814	-2.0	61,189	-3.0	60,565	-4.0	59,940	-5.0	59,316
	再資源化 率	%	51		80		80		80		80		80
一般廃棄物		kg	71	-1.0	70	-2.0	70	-3.0	69	-4.0	68	-5.0	68

○ 環境経営目標 【はいばらエコセンター】

環境負荷		単位	基準値	対基準年 年間削減 目標率	1年目	対基準年 年間削減 目標率	2年目	対基準年 年間削減 目標率	3年目	対基準年 年間削減 目標率	4年目	対基準年 年間削減 目標率	5年目
			2022年度 実績		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度
			売上 271百万円	%	目標数値	%	目標数値	%	目標数値	%	目標数値	%	目標数値
CO2排出量	総量	kg-CO2	46,786	-0.6	46,536	-1.2	46,285	-1.8	46,037	-2.4	45,785	-3.1	45,537
電力		kw h	8,185	-0.5	8,144	-1.0	8,103	-1.5	8,062	-2.0	8,021	-2.5	7,980
ガソリン		L	1,363	-1.0	1,349	-2.0	1,335	-3.0	1,322	-4.0	1,308	-5.0	1,295
軽油		L	15,484	-0.5	15,407	-1.0	15,329	-1.5	15,252	-2.0	15,174	-2.5	15,097
灯油		L	0.0	-1.0	0.0	-2.0	0.0	-3.0	0.0	-4.0	0.0	-5.0	0.0
水使用量	上水及び 農業用水	m <sup>3</sup>	112	-1.0	111	-2.0	110	-3.0	109	-4.0	108	-5.0	106
産業廃棄物	総排出量	kg	本 社 の み										
	再資源化 率	%											
一般廃棄物		kg	200	-1.0	198	-2.0	196	-3.0	194	-4.0	192	-5.0	190

○ 環境経営目標 【本社・はいばらエコセンター合算】

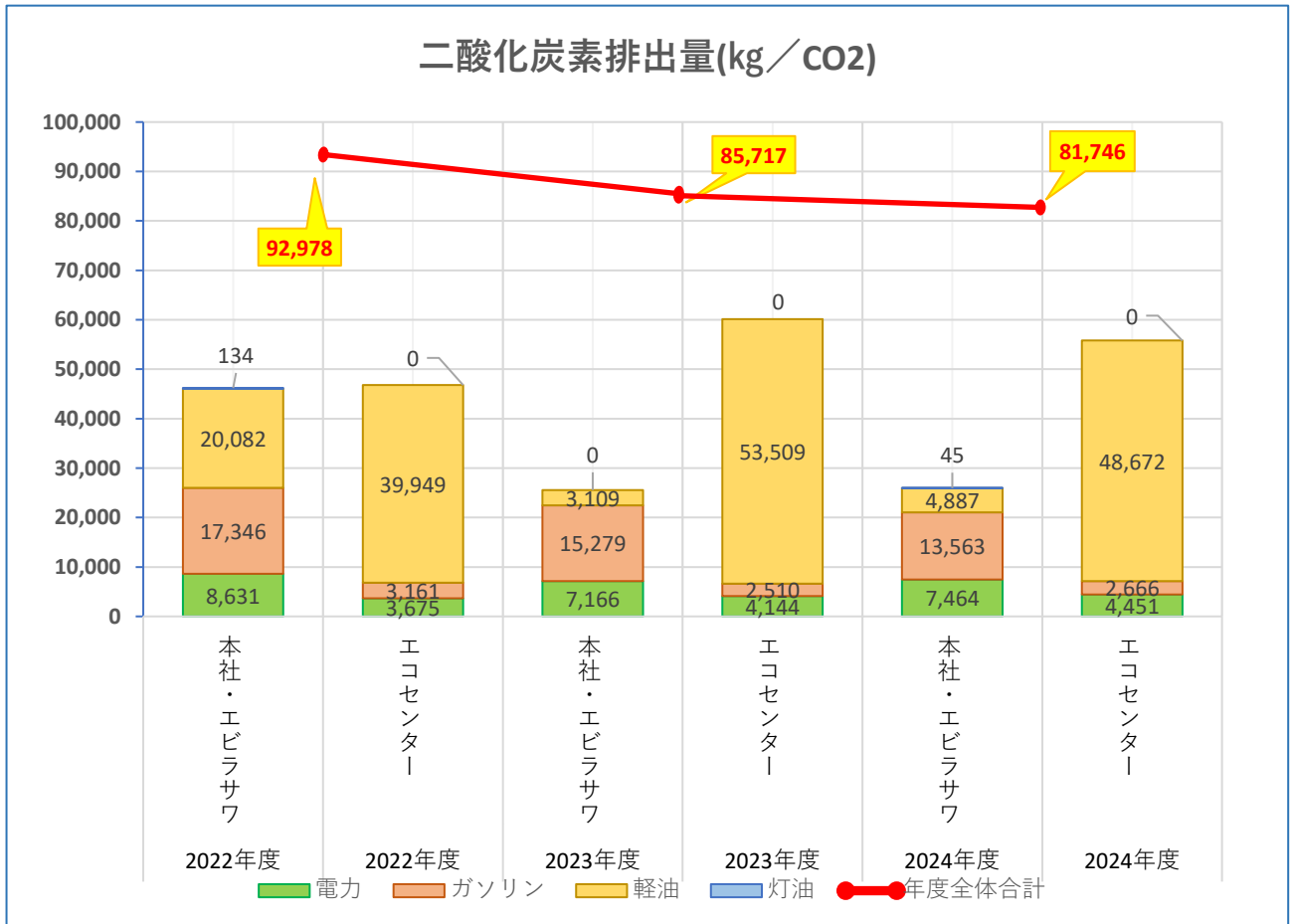
環境負荷	単位	基準値	対基準年 年間削減 目標率	1年目	対基準年 年間削減 目標率	2年目	対基準年 年間削減 目標率	3年目	対基準年 年間削減 目標率	4年目	対基準年 年間削減 目標率	5年目	
		2022年度 実績		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
		売上 271百万円	%	目標数値	%	目標数値	%	目標数値	%	目標数値	%	目標数値	
CO2排出量	総量	kg-CO2	92,978	-0.6	92,410	-1.2	91,842	-1.8	91,274	-2.4	90,706	-3.1	90,138
	原単位	kg-CO2/ 百万円	343	-2.0	336	-4.0	329	-6.0	332	-8.0	316	-10.0	309
電力		kw h	27,407	-0.5	27,270	-1.0	27,133	-1.5	26,996	-2.0	26,859	-2.5	26,722
ガソリン		L	8,839	-1.0	8,751	-2.0	8,662	-3.0	8,574	-4.0	8,485	-5.0	8,397
軽油		L	23,268	-0.5	23,152	-1.0	23,035	-1.5	22,919	-2.0	22,803	-2.5	22,686
灯油		L	54.0	-1.0	53.5	-2.0	52.9	-3.0	52.4	-4.0	51.8	-5.0	51.3
水使用量	上水及び 農業用水	m <sup>3</sup>	217	-1.0	215	-2.0	213	-3.0	210	-4.0	208	-5.0	206
産業廃棄物	総排出量	kg	62,438	-1.0	61,814	-2.0	61,189	-3.0	60,565	-4.0	59,940	-5.0	59,316
	再資源化 率	%	51		80		80		80		80		80
一般廃棄物		kg	271	-1.0	269	-2.0	265	-3.0	262	-4.0	260	-5.0	257

## 7. 経営環境各目標の達成状況・評価

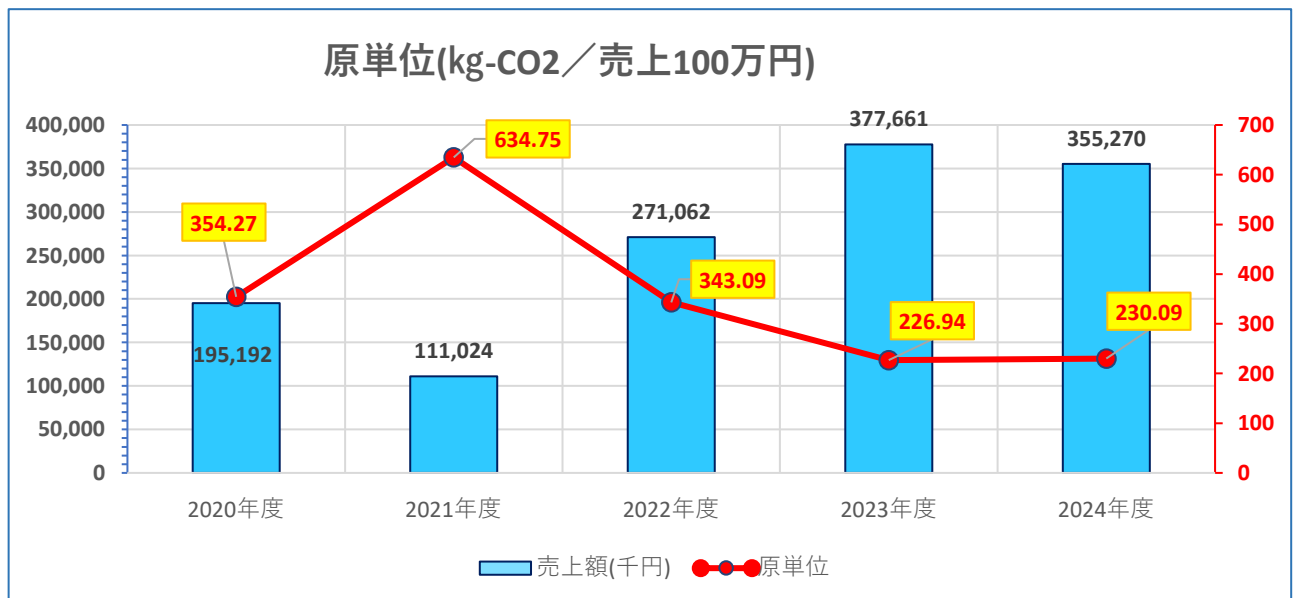
### 二酸化炭素排出量

kg/CO2

【目標】2022年度比 電力・ガソリン・軽油・灯油の削減目標の合計値						
目標	本 社	45,557	実績	25,958	判定	○
目標	エコセンター	46,285	実績	55,788	判定	×
目標	全 体	91,842	実績	81,746	判定	○



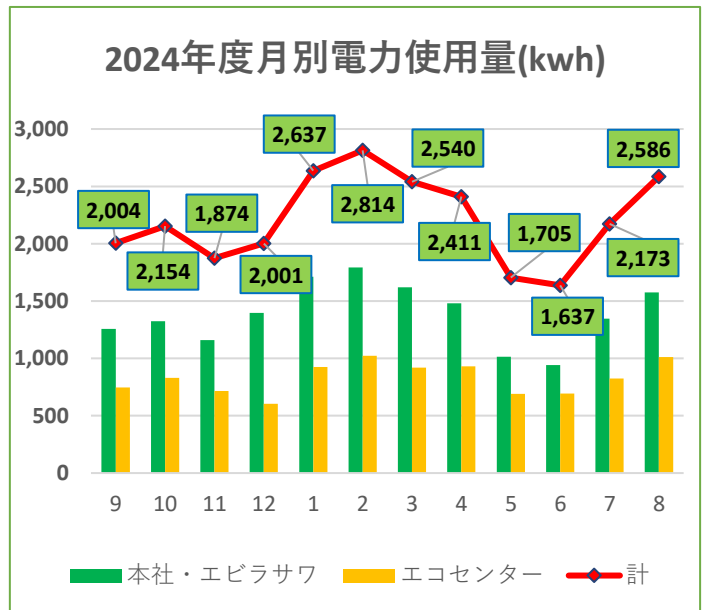
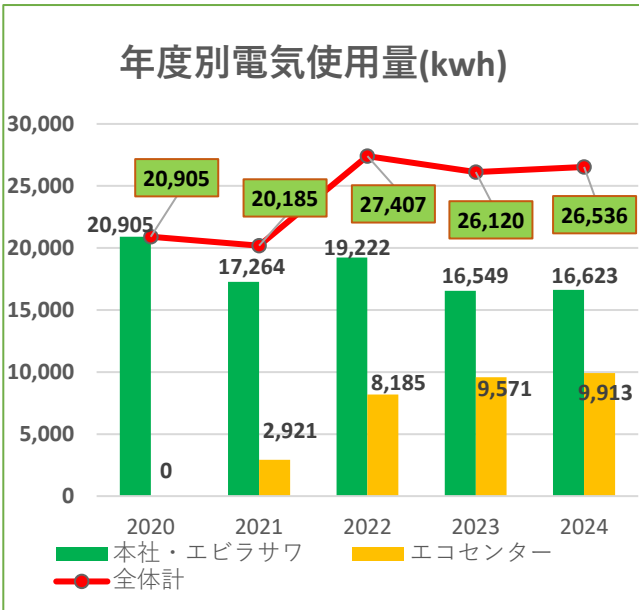
【目標】2022年度比 4% 削減 原単位 (kg/売上100万円)						
目標	全 体	329	実績	230	判定	○



# 電 気



【目標】		2022年度比		1.0%削減(kwh)	
目標	本 社	19,030	実績	16,623	判定 ○
目標	エコセンター	8,103	実績	9,913	判定 ×
目標	全 体	27,133	実績	26,536	判定 ○



## 電力削減の具体的な取組み項目

- ① エアコンの設定温度を夏27°、冬20° に設定
- ② クールビズ・ウォームビズを推奨
- ③ 昼休みの消灯、不要な照明設備の見直し
- ④ 仕切りカーテンの使用
- ⑤ グリーンカーテンの植栽
- ⑥ 購入の際は省エネ機器を選ぶ

◆ 冬場はウォームビズを意識し、ジャケット・ダウン着用を心がけ、夏場は通気性の良い素材ユニフォームを着用する等、削減努力を継続。夏場のエビラサワ処分場の廃止に伴う作業及び事務所のアコン使用による増。又はいばらエコセンターの本格稼働に伴う使用量増により、前年より増加したが、目標は達成。

### ◆ グリーンカーテンの設置(本社)

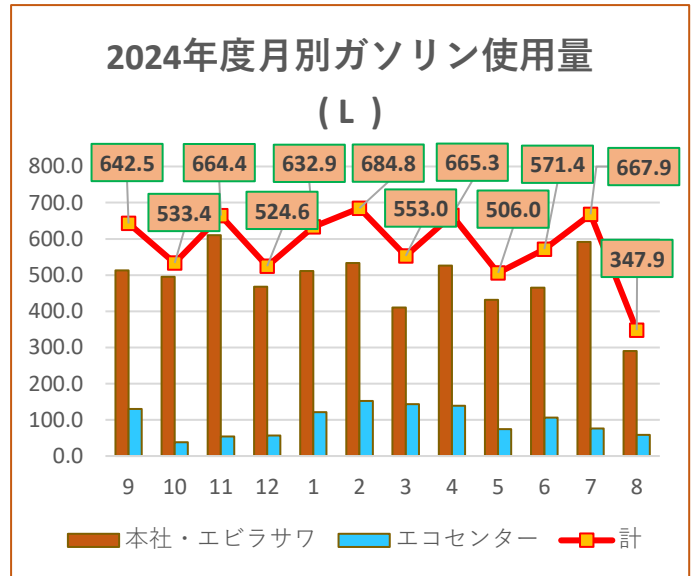
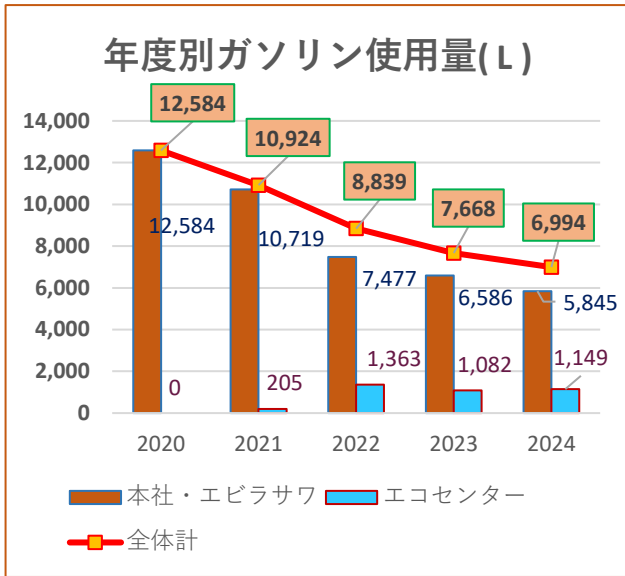
事務室の室温上昇を抑える効果がありました。



# ガソリン



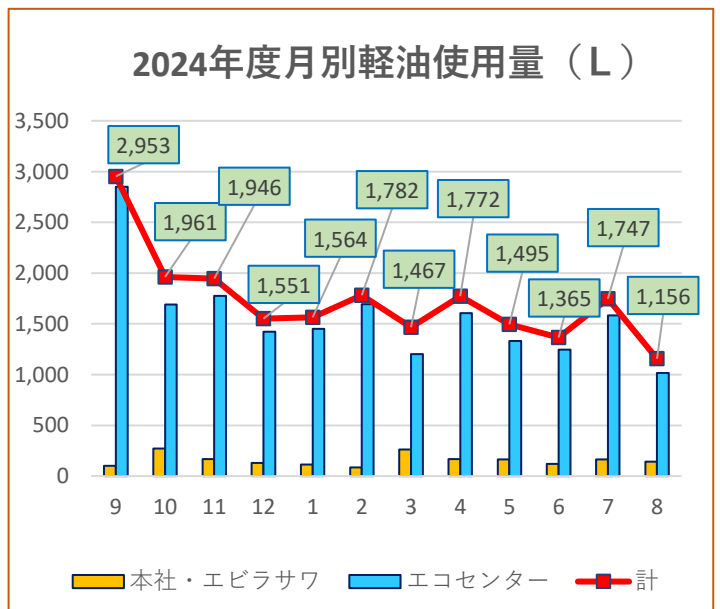
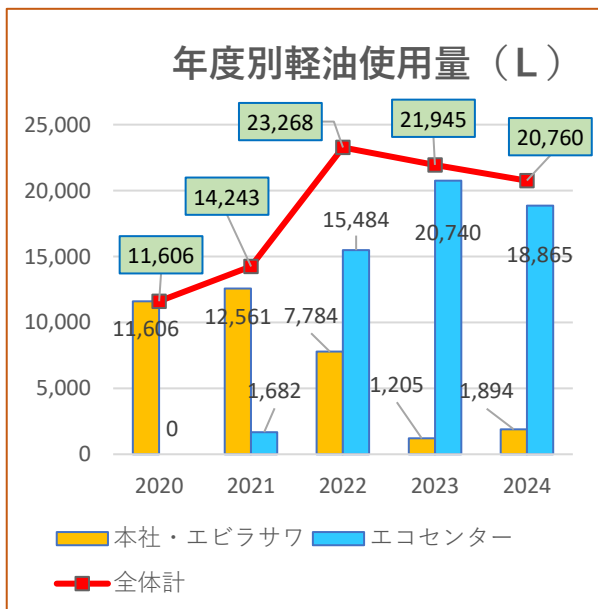
【目標】		2022年度比	2.0%削減(L)		
目標	本 社	7,327	実績	5,845	判定 ○
目標	エコセンター	1,335	実績	1,149	判定 ○
目標	全 体	8,663	実績	6,994	判定 ○



# 軽 油



【目標】		2022年度比	1.0%削減(L)		
目標	本 社	7,706	実績	1,894	判定 ○
目標	エコセンター	15,329	実績	18,865	判定 ×
目標	全 体	23,035	実績	20,760	判定 ○



## ガソリン・軽油削減の具体的な取組項目

全車両について、エコ・ドライブを周知し、ガソリン・軽油の燃費改善

- ① 不必要なアイドリングの禁止
- ② 急発進・急加速・急減速・急停止の禁止(4つの急)
- ③ 早めのシフトアップ、エンジブレーキの積極使用
- ④ エアコンを控えめに、作業中のOFF
- ⑤ 計画的な運行ルートで行動し、忘れ物を無くす
- ⑥ 不要な荷物を降ろし、タイヤの空気圧が適正かチェックする
- ⑦ 運行記録簿の記載

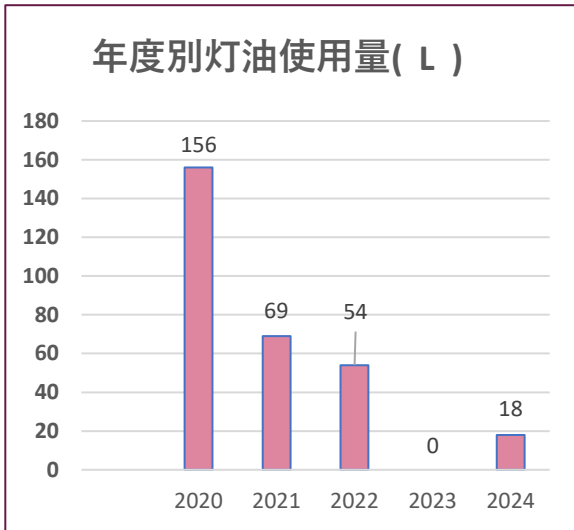
◆ 軽油は、本社部門におけるエビラサワ処分場の2023.3月受入終了により、対目標達成。はいばらエコセンター部門は、本格稼働による重機使用時間の増加により、目標を超過となりました。ガソリンの使用量は、本社建築部門において、遠方の現場を含めた建築工事量の減少により、車輛の使用が減少した事を要因に目標達成となりました。

# 灯 油



【目標】 2022年度比		2.0%削減(L)			
目標	本 社	53	実績	18	判定 ○

はいばらエコセンターは、灯油使用なし。



## 灯油使用量削減の具体的な取組項目

- ① 仕切りカーテンの設置
  - ② 休憩室(暖房機器使用)の使用時間の短縮
- 灯油使用量削減に努め、目標達成となりました。

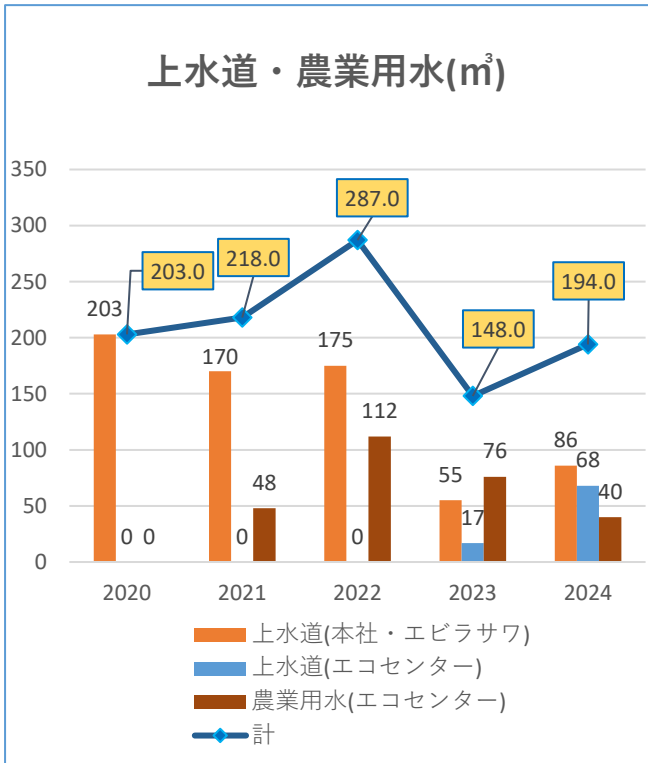
- ◆ 事務室での空調機器(エアコン)使用時、又休憩室での暖房機器(ファンヒーター)使用時の室温 維持の為、仕切りカーテン利用しています。(本社)



# 上水道・農業用水



【目標】		2022年度比		2.0%削減(m <sup>3</sup> )			
目標	本社	上水道	103	実績	86	判定	○
目標	エコセンター	上水道 農業用水	110	実績	108	判定	○
目標	全体(上水道・農業用水)		213	実績	194	判定	○



## 水使用量削減の具体的な取組み項目

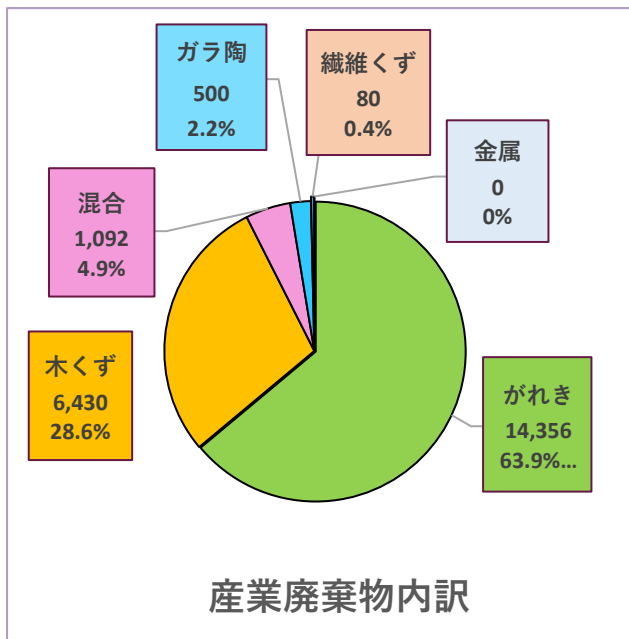
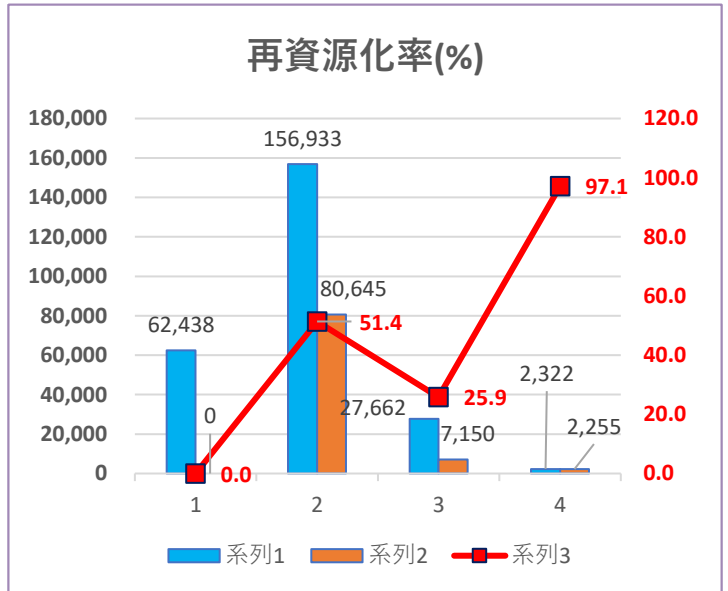
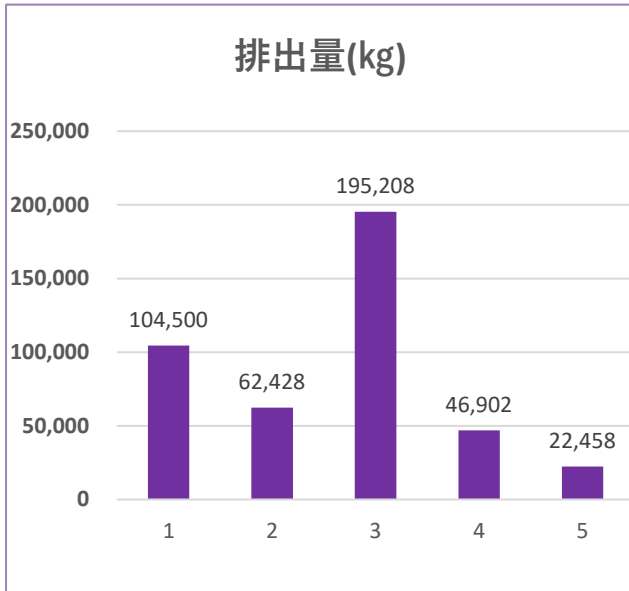
- ① 洗面所へのエコマークの掲示
  - ② 雨水タンクの継続利用
    - ◆ はいばらエコセンターでは、雨水タンクを設置し、散水時にトラックのタイヤ洗浄に利用する等、節水に努力しています。又社内全体での節水の呼びかけ・洗面所へエコマークの掲示を実施しました。
- 本社の増加は、建築作業場の排水管の水漏れ、エコセンターの増加は、粉じん飛散防止の為の散水量の増加が要因となります。



# 産業廃棄物



【目標】 2022年度比 総排出量 2.0%削減(kg)						
再資源化率 (対中間処理量) 80%						
目標	排出量	61,189	実績	22,458	判定	○
内中間処理量			実績	2,322		
再資源化量			実績	2,255		
目標	再資源化率	80%	実績	97%	判定	○



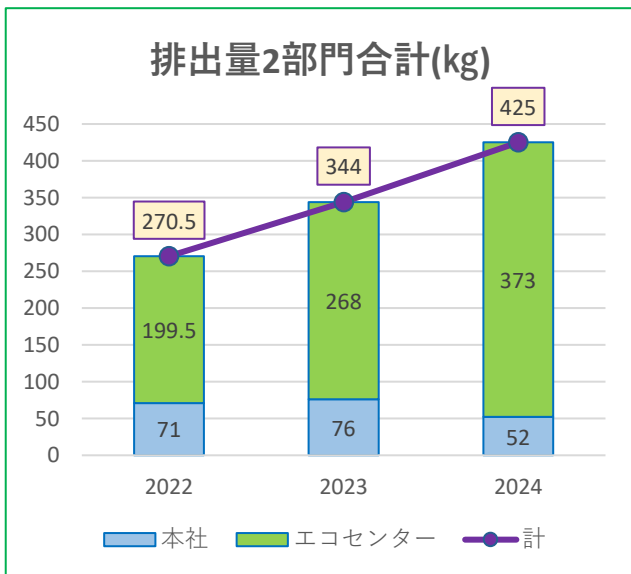
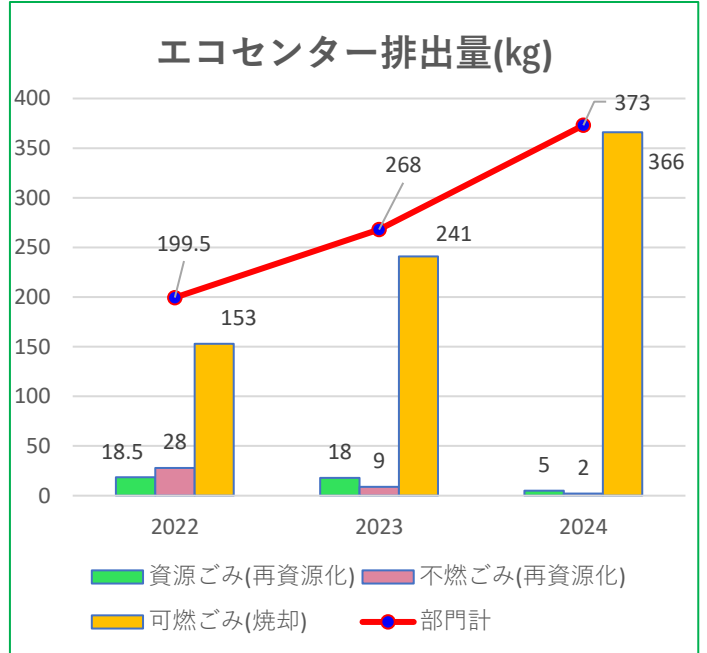
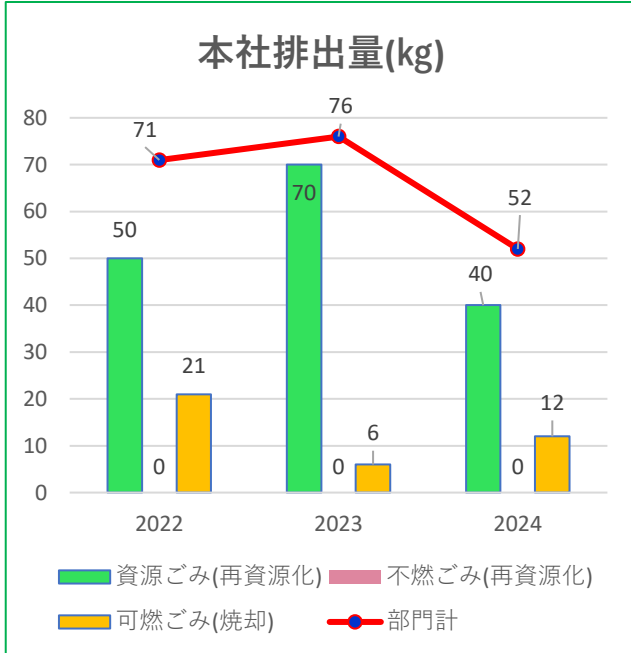
## 産業廃棄物削減の具体的な取組み項目

- ① 産業廃棄物の分別の徹底
  - ② 再資源化業者の継続利用
- ◆ 2024年度は、建築物の解体も少なく、大幅に排出量の減少となりました。
  - ◆ 今年度より、木くず・混合廃棄物の内、焼却処分した後、管理型処分場で埋立処理される廃棄物は、中間処理量とせず、最終処分量(埋立)としました。資源化率は、受入業者の再資源化実績率から、算出しました。

# 一般廃棄物



【目標】		2022年度比		4.0%削減(kg)	
目標	本社	70	実績	52	判定 ○
目標	エコセンター	195	実績	373	判定 ×
目標	全体	265	実績	425	判定 ×



### 一般廃棄物の具体的な取組み項目

- ①自治体の分別基準に従い、適正に処理を行う。
- ②不要印刷物の削減に努め、コピー用紙等のシュレッターゴミの削減を図る。

◆エコセンターにおける契約関係封筒等の紙シュレッターゴミの増加を要因に可燃ごみが増加し目標達成に至りませんでした。。



## 8. 環境経営計画及び環境活動の実施状況

項目	環境改善手段	責任者		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8		
CO2排出量削減	①CO2排出量等の結果を社員に通知し、周知徹底する。 ②効率の良い省エネ型設備・機器類の導入 ③夏替時に低排気、低公害車やエコカーの導入検討	富田 植原	①	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-		
			②	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			③	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
電力使用量削減	①エアコンの設定温度を夏27℃、冬20℃に設定 ②クールビズ・ウォームビズを推奨 ③昼休みの消灯、不要な照明設備の見直し ④仕切りカーテンの使用 ⑤グリーンカーテンの設置	中村 板垣	①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			②	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			④	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			⑤	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○
ガソリン使用量削減 軽油使用量削減	全車両について、エコ・ドライブを周知し、ガソリン・軽油の燃料改善 ①不要なアイドリングの禁止 ②急発進・急加速・急減速・急停止の禁止（4つの急） ③早めのシフトアップ、エンジンブレーキの積極使用 ④エアコンを控えめに、作業中のOFF ⑤計画的な運行ルートで行動し、忘れ物を無くす。 ⑥不要な荷物を降ろし、タイヤの空気圧が適正かチェックする ⑦運行記録簿の記載	高畑 神谷	①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			②	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			④	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			⑤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			⑥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			⑦	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
灯油使用量削減	冬場の事務所での使用となるため、ウォームビズの推進継続をする。	中村		-	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-			
産業廃棄物 排出量と再資源化量	①廃棄物の分別徹底 ②再資源化業者の利用	植原	①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
			②	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
一般廃棄物排出量 適正処理・排出削減	①事業系一般廃棄物の分別徹底や、ごみの減量、紙くずのリサイクルに努め業者と契約をし適正に処理を行う。	中村 板垣		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
水使用量の削減	①節水の呼びかけ ②漏水の早期発見 ③雨水タンクの設置による雨水の利用	植原 高畑 板垣	①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			②	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
環境関連法規の遵守	・関連する法律を調べ、周知共有する <a href="#">9.関連法規参照</a>	植原 岩崎		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
教育訓練	適切に処分場での業務を行うため、教育・資格取得・セミナー受講を推奨する。 <a href="#">10.教育・訓練の実施参照</a>	勝山 板垣		○	○	○	○	○	-	○	-	○	○	○	-		
産業廃棄物処分場 維持・管理	・産業廃棄物の搬入物の管理を厳格に実施する ・法面、堰堤、沈砂池、境界フェンス、門扉、重機、散水車、浸出水・地下水の点検 月3回	高畑 神谷		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
リサイクルの推進	①段ボール、雑誌等の紙類のリサイクル ②分別の徹底	中村 中野	①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
			②	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
グリーン商品の 購入促進	事務用品はグリーン商品を優先的に購入する。 グリーン商品を把握し、切り替え可能なものは変更していく。	中村 岩崎		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
処分場における 環境配慮	①IoT技術（ネットワークカメラ）を導入し、リアルタイムで廃棄物の異物混入などの判断をより細かく行い、土壌・水質に影響がでないよう検査チェックを行う。環境に配慮した検査体制を構築する。 ②処分場における維持管理・点検を毎月3回行う。	富田 高畑	①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
			②	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
外部コミュニケーション の活性化	監視委員会の実施。 ネットワークカメラでの様子等を確認し、廃棄物の埋立、処分工程を見学できるよう整え、適切に行われている事を確認してもらい、事業の透明性を確保する。地域住民苦情・要望に対するの対応ができる外部コミュニケーションの場所とする。	富田 植原		-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-		
敷地内緑化	はいばらエコセンター敷地内での緑化を進める。	高畑 板垣 中野		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

## ◆ グリーン商品の購入促進

購入率

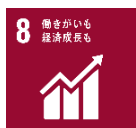
	2022年度	2023年度	2024年度
本社	57.0 %	64.8 %	87.3 %
はいばらエコセンター	54.0 %	63.6 %	61.2 %
合計	55.5 %	64.2 %	74.3 %



グリーン購入法適合品の購入促進を図り、前年に比較し購入率増加となりました。

## ◆ 使用済み切手回収による国際協力への参加

NPO法人日本国際ボランティアセンターへ、社内で収集した使用済み切手を送付しました。使用済み切手は、換金後、発展途上国の子供の栄養改善・教育支援・自然資源を守るための活動に充てられます。



**こんなものが支援に変わります** 集めていないもの▷ 食品/寝具/洋服/カバン/おもちゃなど

未使用/裏押しハガキ 未使用/使用済切手 外国のお金 金券/商品券 本/DVD 貴金属/腕時計/アクセサリ/カメラ

**どんな支援につながるの?** 2022年度は約9,000名の方からのご協力で約2,000万円のご支援となり、世界の人々を支える大きな力となっています。

**63円ハガキ 25枚で** ハレスチナでは、栄養失調の子も1人がクリニックへ送うための交通費が賄えます。

**使用済み切手 1kgで** スーダンでは、紛争で学校に進えなかった子ども3人に、教材と学用品を届けることができます。

**不要品はどうやって支援に変わるの?**

仕分ける → 換金する → 届ける

皆さまから預かった物品を再処理し、細かく仕分けをします。

仕分けた物品は郵便局や金券ショップで換金。リサイクルショップや買取業者の方に買い取って頂くこともあります。

換金され、得たお金は現地の活動資金として活用されます。

**どうやって参加すればいいの?** **送料 無料**

**郵便・宅急便で送る** 使用済み切手の送り方

郵送・宅配便でお好きなタイミングで下記の住所にお送り下さい。送料のご負担をお願いします。

**プログラムに参加する** 協力企業に買い取って頂くプログラム。送るモノが多い場合や、領収書が必要な場合にぜひご利用ください。

**みんなで集める** 職場や学校、お住まいの自治体などでの回収ボックスの設置、チラシや専用封筒の配布も可能です。

**未来のために、分断のない世界をつくる**

日本国際ボランティアセンター(JVC)は1980年に設立し、アジア、アフリカ、中東の6ヶ国で活動する日本最大の国際協力NGOです。自然資源を守るためのラオスでの取り組みや、紛争により教育の機会を奪われたスーダンでの教育支援、パレスチナでの子供の栄養改善などを行っています。また、問題の根本解決を目指し、調査活動にも取り組んでいます。

〒110-8605 東京都台東区上野5-22-1 東神ビル4F  
特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター JVC 物品支援係  
TEL: 03-3834-2388 FAX: 03-3835-0519  
Email: mono@ngo-jvc.net

JVC モノを送る

## ◆ 処分場における環境配慮

はいばらエコセンターにおいて、設置済のネットワークカメラにより、受付時・展開時の記録・確認を行い、環境に配慮した検査を実施。

## ◆ 外部コミュニケーションの活性化

- ・ 監視委員会によるコミュニケーションの活性化

実施日 : 2024年 11月 19日(火)  
参加者 : はいばらエコセンター 3名  
川崎区自治会より、監視委員会メンバー

実施日 : 2025年 4月 23日(水)  
参加者 : はいばらエコセンター 3名  
川崎区自治会より、監視委員会メンバー



社長による現況説明



処分場内視察

## 9. 環境関連法規一覧 兼 遵守評価表

遵守状況の確認時期：毎年10月

廃棄物・リサイクル				
環境法規則等の名称・略称	規制内容 適用範囲	遵守事項	記録・実施の事項	遵守状況
廃棄物処理法	産業廃棄物 処分業	処理基準の遵守		確認済
		委託契約書(受託)の締結		確認済
		マニフェストの送付	D票E票を交付者へ、C票を運搬業者へ処分終了から10日以内に送付	確認済
		マニフェストの保存	C1票をC2・D・E票を送付した日から5年間保存	確認済
		帳簿への記載、 閉鎖、保存	①受入れ又は処分年月日②マニフェストの交付者・番号・交付年月日を③受入先ごとの受入量④処分方法事の処分量を、①②は回付日から10日以内に、③④は前月分を毎月末までに記載し、1年ごとに閉鎖し、閉鎖後5年間保存する。	確認済
		残余埋立容量の 測定、記録	1回以上/年	確認済
		維持管理基準の遵守	侵入防止、展開検査の実施、地下水検査の実施(1回以上/年)、浸透水検査(地下水等検査項目1回以上/年、BOD又はCOD1回以上/月)	確認済
		維持管理状況の公表	各月毎の埋立物の種類、数量/擁壁等検査記録/残余埋立容量/展開検査記録/水質検査結果/調査結果・点検結果・措置内容等を該当月の翌月末日までに公表を実施し、該日から起算して3年を経過する日まで行う。	確認済
		維持管理状況記録の 備置	各月毎の埋立物の種類、数量/擁壁等検査記録/残余埋立容量/展開検査記録/水質検査結果/措置内容を翌月末日までに据え置き、据え置いた日から3年間保存する。	確認済
		維持管理状況記録の 閲覧	生活環境保全上利害関係者の求めに応じ、維持管理状況記録を閲覧に供する。	確認済
		維持管理積立金の積立	毎年度、埋立終了まで	確認済
		年間報告	産業廃棄物処理実績報告書/産業廃棄物処分状況報告書を毎年6月末までに、静岡県に提出。	確認済
		業の許可の更新	5年(7年)毎に更新申請実施 (有効期限:令和10年11月18日)	確認済
変更時の届出	該当事由発生日から10日以内(登記事項証明書の添付を要する場合は30日以内)	確認済		

廃棄物・リサイクル				
環境法規則等の 名称・略称	規制内容 適用範囲	遵守事項	記録・実施の事項	遵守状況
廃棄物処理法	産業廃棄物 収集運搬業	処理基準の遵守		確認済
		委託契約書(受託)の締結		確認済
		マニフェストの送付	B票を交付者へ、運搬終了日から10日以内に送付	確認済
		マニフェストの保存	B1票をB2票を送付した日から、C2票を送付を受けた日から、5年間保存	確認済
		帳簿への記載、 閉鎖、保存	①収集又は運搬年月日②マニフェストの交付者・番号・交付年月日を③受入先ごとの受入量④運搬方法及び運搬先毎の運搬量を、①②は回付日から10日以内に、③④は前月分を毎月末までに記載し、1年ごとに閉鎖し、閉鎖後5年間保存する。	確認済
		年間報告	産業廃棄物運搬状況報告書を6月末までに静岡県へ提出	確認済
		業の許可の更新	5年(7年)毎に更新申請実施(有効期限:令和8年11月21日)	確認済
	変更時の届出	該当事由発生日から10日以内(登記事項証明書の添付を要する場合は30日以内)	確認済	
	産業廃棄物 排出事業者 (建設業を含む)	委託契約書の締結	契約終了の日から5年間保存	確認済
		実地確認の実施	年1回以上、記録の保存	確認済
		マニフェストの交付	産業廃棄物の運搬又は処分を他人に委託する場合	確認済
		マニフェストの保存	A票を交付日から、B2・D・E票を送付を受けた日から、5年間保存	確認済
		年間報告	産業廃棄物管理票交付等状況報告書を毎年6月末日までに静岡県に提出	確認済
	静岡県産業廃棄物の 適正な処理に関する 条例	全般	産業廃棄物管理責任者の 選任	
実地確認の実施			産業廃棄物を委託しようとするとき、(委託契約締結前)及び継続して委託するときは(毎年1回以上)、記録、記録した日から5年間保存	確認済
石綿含有廃棄物等 処理マニュアル (第3版)	全般		一定の場所に分散しないように／飛散防止／即日覆土／埋立量・埋立場所を記録・保存	確認済
建設リサイクル法	規定規模以上の 建設工事	資材の分別 再資源化	工事着手7日前までに届出	確認済
家電リサイクル法	特定家庭用機器	家電リサイクル券購入 後、指定引取り場所へ 運搬	家電リサイクル券の受領書を保存	確認済

公害・環境				
環境法規則等の名称・略称	規制内容 適用範囲	遵守事項	記録・実施の事項	遵守状況
騒音規制法	産業廃棄物処分業	基準値の遵守 55db	年1回測定	確認済
振動規制法	産業廃棄物処分業	基準値の遵守 65db	年1回測定	確認済
悪臭規制法	産業廃棄物処分業	基準値の遵守 臭気指数15	年1回測定	確認済
浄化槽法	合併処理浄化槽	保守点検、清掃及び 法定点検の実施	保守点検：4か月に1回以上、清掃：年1 回以上、法定点検1年に1回実施し、各記 録を3年間保存	確認済
環境保全協定書(牧 之原市)	はいばら エコセンター	測定結果・計画書を 測定及び作成の日より 1か月以内に報告	環境行動計画書：年1回 浸透水の地下水環境基準：年1回 浸透水のBOD、電気伝導率、塩化イオン ：毎月1回 地下水の地下水検査項目：年1回+1回/ 年 騒音及び振動：年1回悪臭：年1回	確認済
廃棄物処理施設(安 定型最終処分場)設 置事業に伴う変更 覚書(牧之原市・ 川崎区)	はいばら エコセンター	測定結果・計画書を 測定及び作成の日より 1か月以内に報告	管理報告書(調整池、排水路、堰堤、法 面等)：年1回 水質検査：年2回 監視カメラによる搬入及び展開検査を電 子媒体等により5年間保存	確認済
フロン排出抑制法	事務所エアコン 重機エアコン	簡易定期点検	四半期に一回以上、社員による目視確認 を行い、点検記録簿に記録する。	確認済み
その他				
環境法規則等の名称・略称	規制内容 適用範囲	遵守事項	記録・実施の事項	遵守状況
労働安全衛生法	車両系建設機械	自主点検・法定点検の 実施	点検記録を3年間保存	確認済
道路運送車両法	廃棄物収集車両	法定点検の実施	点検記録を3年間保存	確認済
道路交通法	自動車5台以上使用 の事業所	安全運転管理者の選任	安全運転管理者法定講習の受講	確認済
		目視確認 アルコールチェック	記録を作成し1年間保存	確認済

環境関連法規等の遵守状況及び評価の結果 : 対象期間中の違反はなく、問題はありませんでした。  
環境関連法規陶に関する違反、訴訟などの有無 : 過去3年間にわたって違反や訴訟はありませんでした。

遵守確認日：2024年10月1日 確認者：環境管理責任者 富田道明

## 10. 外部からの苦情などの受付状況及びその対応策

○年間通じて、苦情等の発生はありませんでした。

今後も、苦情・要望に関しては、迅速かつ丁寧な対応と、再発防止体制を整えていく方針です。

# 11. 環境経営計画（2025年度）

次年度の環境経営計画の取り組み内容は次のとおりです。

## 環境経営計画

項目	環境改善手段	R7												R8												責任者
		日程（月）																								
		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	
CO2排出量削減	①CO2排出量等の結果を社員に通知し、周知徹底する。 ②効率の良い省エネ型設備・機器類の導入 ③買替時に低排気、低公害車やエコカーの導入検討																									勝山
電力使用量削減	①エアコンの設定温度を夏27℃、冬20℃に設定 ②クールビズ・ウォームビズを推奨 ③昼休みの消灯、不要な照明設備の見直し ④仕切りカーテンの使用 ⑤購入の際は省エネ機器を選ぶ																									中村 板垣
ガソリン使用量削減	全車両について、エコ・ドライブを周知し、ガソリン・軽油の燃料改善 ①不要なアイドリングの禁止 ②急発進・急加速・急減速・急停止の禁止（4つの急） ③早めのシフトアップ、エンジンブレーキの積極使用																									植原 勝山
軽油使用量削減	④エアコンを控えめに、作業中のOFF ⑤計画的な運行ルートで行動し、忘れ物を無くす。 ⑥不要な荷物を降ろし、タイヤの空気圧が適正かチェックする ⑦運行記録簿の記載																									
灯油使用量削減	冬場の事務所での使用となるため、ウォームビズの推進継続をする。																									中村
産業廃棄物 分別徹底	①廃棄物の分別徹底																									勝山
一般廃棄物排出量 適正処理・ 排出削減	①事業系一般廃棄物の分別徹底や、ごみの減量、紙くずのリサイクルに努め、業者と契約をし、適正に処理を行う。 ②一般廃棄物の排出量を記録し随時排出量が確認できる体制とする。																									中村 板垣
リサイクルの推進	①ダンボール、雑誌等の紙類のリサイクル ②分別の徹底																									中村 中野
グリーン商品の 購入促進	事務用品はグリーン商品を優先的に購入する。 グリーン商品を把握し、切り替え可能なものは変更していく。																									中村 岩崎

項目	環境改善手段	R7												R8												責任者		
		日程(月)												日程(月)														
		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8			
水使用量の削減	①節水の呼びかけ ②漏水の早期発見 ③雨水タンクの設置による雨水の利用																									植原 高畑		
処分場における 環境配慮	①IoT技術(ネットワークカメラ)を導入し、リアルタイム で廃棄物の異物混入などの判断をより細かく行い、土壌・水 質に影響がでないよう検査チェックを行う。 ②データシートにより記録(1搬入ごとに作成) ③処分場における維持管理・点検を週1回以上行う。																									富田 高畑 板垣		
外部コミュニケー ションの活性化	特に周辺地域住民の見学受入を行う。 ネットワークカメラでの様子等を確認し、廃棄物の埋立、処分 工程を見学できるよう整え、適切に行われている事を確認して もらい、事業の透明性を確保する。地域住民苦情・要望に対 しての対応ができる外部コミュニケーションの場所とする。																									富田 高畑		
敷地内緑化	はいばらエコセンター敷地内での緑化を進める。																									高畑 神谷		
教育訓練	適切に処分場での業務を行うため、ウェブセミナー等を活用し知識 の習得を図る。																									植原 勝山 高畑		
産業廃棄物処分場 維持・管理	・産業廃棄物の搬入物の管理を厳格に実施する ・伝票による排出事業者検査 ・予約システム搬入による効率化、近隣への配慮 ・キャパライザー体積測量 ・ネットワークカメラによる記録・確認 ・法面、堰堤、沈砂池、境界フェンス、門扉、重機、散水車、 浸出水・地下水の点検 週1回以上																									高畑 神谷		
環境関連法規の遵守	・建築、不動産、処分場に関連する法律を調べ、周知共有する																									諸田 富田		

## 12.取組状況の確認・評価、並びに問題の是正及び予防(1)

### ○前期取組に対する改善事項の対応

対象項目	問題点・改善点・今後の取組み
【環境への負荷と環境への取組状況の把握及び評価】 ・電気のCO2排出係数について	・電気の排出実績算出時のCO2排出係数について、各年度の係数を使用していましたが、削減経過の把握ができるように基準年の係数を使用。
【経営環境目標及び環境経営計画の策定】 ①CO2排出削減目標について ②部門別削減目標の設定について	①電気・軽油等の使用量削減目標に基づき算出した各項目のCO2排出量合計と、CO2排出目標値が合致していなかった事から、CO2排出目標値を修正。 ②本社(建設・不動産)・エビラサワ処分場(現在廃止)・はいばらエコセンターに区分し、実績把握をしておりましたが、目標設定は合算の数値で、部門別の目標達成状況が把握できていなかったことから、本社とはいばらエコセンターの2部門での目標を設定。
【取組状況の確認・評価】 ・目標に対する確認、評価	・月々の目標設定をしておらず、年度途中での各目標に対する達成状況の把握ができていなかったことから、月々の目標設定と実績表への入力を行い、四半期ごとに達成状況の確認と評価を実施していく。(2024年度 第3四半期2025.7月実施)

### ○今期の取組状況の確認、評価

対象項目	問題点・原因・是正・予防、対応策等
【経営環境目標】 ○達成状況	・一般廃棄物排出量以外の項目は、全体目標を達成。一般廃棄物の排出量増加は、エコセンターのシュレッダーごみの増加が要因。引き続き不要印刷物の削減に努めていく。
【環境経営計画】 ○はいばらエコセンターの敷地内緑化	・事務所近辺の植樹を計画するも、土入れ替え等の費用も掛かり断念。その他の場所の植樹を来期検討予定。
【環境上の緊急事態への準備】 ○地震等の天災による災害リスク対応	・事業継続力強化計画(2024.10.8認定)の策定に基づき、防災マニュアル作成。2025年度より年1回の防災訓練を実施する。(2025.9.18実施済)

## 12. 取組状況の確認・評価、並びに問題の是正及び予防(2)

### ◆ 2024年度(2024.9～2025.8) 第3四半期 環境経営目標に対する期中実績報告

令和7年7月、社員に対し2023年度エコアクション21審査結果と、2024年度第3四半期の環境目標に対する期中実績を開示。環境経営目標に対しての意識付と、各項目の削減努力を指示しました。

## エコアクション21

2024年度 (2024.9～2025.8)

### 第3四半期期中 (R7.3.1～R7.5.31) 環境目標と実績

(本社・はいばらエコセンター合算)

環境負荷項目	単位	年間目標	第3四半期 期中目標	第3四半期 期中実績	評価	期中目標 実績率	
CO2排出量の削減	kg-CO2	91,842	24,881	19,202	○	77.2%	
電力の削減	kwh	27,133	6,992	6,656	○	95.2%	
ガソリン使用量の削減	L	8,662	1,997	1,724	○	86.3%	
軽油使用量の削減	L	23,035	6,631	4,734	○	71.4%	
灯油使用量の削減	L	53	0	0	○		
水使用量の削減 (上水道・農業用水)	m <sup>3</sup>	213	69	83	×	120.3%	
産業廃棄物 排出量の削減	総排出量	kg	61,189	4,795	0	○	19.5%
	再資源化率	%	80	80	排出なし	○	
一般廃棄物排出量の削減	kg	260	57	134	×	235.1%	

・第3四半期が終了し、第3四半期期中(R7.3.1～R7.5.31)3か月間の、各目標に対する実績(本社・エコセンター合算)は、上記の通りとなります。

①電力・ガソリン・軽油・灯油の4項目の使用量が基準となるCO2の排出量は、第3四半期期中は、目標達成となっております。

②水使用量の目標超過は、本社における建築作業場内での漏水(3月)が原因です。

③一般廃棄物の目標超過については、はいばらエコセンターの本格稼働により、事務量も現状がピーク時と判断され、目標の修正も検討が必要と思われます。

※社員の皆さんには、引き続き上記項目の削減に努力願います。部門別目標及び実績については、別紙部門別『2024年度 環境目標と活動計画及び実績』を参照願います。

## 13. 代表者による全体の評価と見直し・指示

### ○ 環境経営計画の実施状況

#### ・環境負荷実績

環境経営計画における環境経営目標については、5年の中期計画の2年目を迎え、環境活動の各項目の計画に基づき取組を行いました。

電力をはじめとする環境負荷項目において、一般廃棄物の排出量以外の9項目について、全体目標を達成することができ、CO2排出量削減につながっています。引き続き一般廃棄物を中心に、削減の意識を高めるよう指示しました。

#### ・教育訓練、環境関連法規の遵守

各種関連法規違反はありませんでした。前期より受講を開始した顧問弁護士による毎月のオンラインセミナーを、今期も継続して受講。又「欠格要件と両罰規定」をテーマとして、社員を対象に研修を実施しました。

今後も法令順守に対する意識向上と産業廃棄物処理の知識向上のため、講習会、セミナー、研修会への参加を促していきます。

### ○ 環境上の緊急事態への準備及び対応

#### ・災害の想定と対応及び訓練

令和6年10月に認定を取得した「事業継続力強化計画」に基づき、事故や天災等を要因とする環境への影響を最小限に留め、被災の際においても、早期復旧を可能とする対策、対応を周知しました。又巨大地震が予想されている中、「災害対策・防災マニュアル」に基づく、防災訓練を年一回実施し、緊張感を持った災害対策の意識付を図りました。

当社は、持続可能な社会の実現に向けて、環境経営を経営の重要な柱と位置づけています。エコアクション21の理念及び環境経営方針に基づき、環境負荷の低減と社会的責任の遂行を通じて、今後も地域社会に貢献していく所存です。

令和 7 年 11 月 1 日

株式会社 富田工務店

代表取締役 富田道明